

新潟市 PTA

第26号

平成27年12月14日

新潟市小中学校PTA連合会
新潟市中央区幸西3-3-1 じよいあす新潟会館

新潟市小中学校PTA研究大会 —中央区大会—

2015年10月17日

会場 朱鷺メッセマリソホール



オープニング 白山小学校



オープニング 新潟小学校



開会の挨拶

新潟市小中学校PTA連合会会長 大宮 一真

日頃より 皆様方各学校でのPTA活動のご活躍、そして 新潟市P連の活動へのご理解、ご協力感谢您申し上げます。また、ご公務のお忙しい中、日頃より私たちPTAの活動を支援していただいております長浜教育次長様をはじめ多くのご来賓の皆様にご臨席賜り重ねて御礼申し上げます。先ほど、オープニングで素晴らしい演奏を披露していただきました、新潟小学校・白山小学校の万代太鼓部の皆様、研究大会に花を添えていただき、本当にありがとうございました。

さて、本年度研究大会の主題は、『育もう 地域の宝!』～子どもたちが自分と地域に誇りをもって育っていくために～です。また、本日の「講演」の講師として、作家の石川結貴様をお迎えいたしました。「子どもの心とどう向き合うか」～今、子ども社会で起きていること～を演題に豊富な取材実績を踏まえたお話を聞けると思います。

今年の4月から公益社団法人日本PTA全国協議会に加盟いたしました。直接、意見・要望を伝えられるようになったことは、大変大きい事と思います。関東ブロック協議会や指定都市PTAの枠組みにおいても参加しております。子ども達のより良い教育環境のためになればと思います。また、平成30年8月には、日本PTA全国大会「新潟大会」の開催が決定しております。皆様のご協力・参加をお願いいたします。

最後になりましたが、この素晴らしい研究大会を主管してくださいました中央区の宇野実行委員長をはじめ実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



教育長祝辞

新潟市教育委員長 前田 秀子 様

平成27年度「新潟市小中学校PTA研究大会」の開催にあたり、ひと言、お祝いのごあいさつを申し上げます。皆さまには、日頃子どもたちの健全育成や、学校教育の充実のためにご尽力いただいておりますことに、深く感謝を申し上げます。皆さま既にご存じのとおり、新潟市では、今年度から「教育ビジョン第3期実施計画」をスタートさせました。これまでの計画に、新たな視点を加え、発展させつつ、引き続き「学・社・民の融合による教育」を推進しております。次世代を担う子どもたちの健やかな成長には、学校・家庭・地域の連携した取組が、益々その重要性を増しています。とりわけ、保護者と教職員が協働するPTA活動はその中核であり、市内のPTA会員の皆さまが一堂に会して情報交換し、交流を深めることができるこの研究大会は、大変に意義深いものと認識しています。

そして、今研究大会の主題を、「育もう 地域の宝! 子どもたちが自分と地域に誇りをもって育っていくために」とされたことは、何となく閉塞感が感じられる今を踏まえながら、子どもたちの未来に向けて道を開こうとの意思を表した素晴らしいテーマであると敬意を表するものでございます。本日の研究大会での学びと交流の輪を、学校や家庭・地域にお持ち帰りいただき、広めていただくことで、より良い学校づくりにつながっていくもののご期待いたしております。

結びに、本研究大会が、実り多きものとなり、また、新潟市小中学校PTA連合会が、益々発展されますことを祈念申し上げます、お祝いのごあいさつとさせていただきます。

平成27年10月17日

(新潟市教育委員会 教育次長 長浜裕子 様 代読)





講演 子どもの心とどう向き合うか

～今、子ども社会で起きていること～

作家 石川 結貴 様



(講演要旨)

サザエさんのお話は、一家の話だけでなく、家族、親戚、地域の人間関係の多様さが描かれている。世界中のモンスターと戦うポケモンとピカチュウは、大人気。しかし、近所の人も学校の先生も親戚の人も出ない。子どもとモンスターだけ。一家団欒の様子は出てきたことがない。生活感がゼロ。このアニメは、子ども社会を投影している。昭和の子どもたちの周りには、いろんな人がいた。平成の今、子どもの周りに何人の大人がいるか。町を歩いていて、気軽に「こんな夜遅く歩いていて大丈夫か」と声を掛けてくれる大人とのかかわりがどのくらいあるか。大人が子どもの周りに居ない。

子どもはどこに居場所を見付けるか。中学生や高校生を取材して耳にするのは「本当の友達になかなかできない」。「浮いたら大変。空気読まない、マジまずい。だから、みんなに合わせる」。表面的にはつるんでいるが本当の友達とは違う。キャラをつかって役を演じ、みんなの中に入っていないとハブられる(仲間はずれ)。そして、演じ疲れる。本当の自分を出せる、素の自分を分かってくれる人が現実には見つからないため、ネットを通じて分かり合えた友達とネットの中で出会う。この友達を心が通じる「心友」または「信友」という。現実には、リアル社会とネット社会の2つの世界で子どもは生きている。

中学生で平均2時間。スマホが日常生活に深く入り、ネットいじめは、陰湿化、深刻化している。「死ぬ」「キモイ」等の言葉をメールで送り付ける言葉によるいじめ。写真・動画を使ったいじめ。特に気を付けたいのは、集団でからかい、相手が追い詰められている動画を撮影していたぶるいじめ。撮る方は、ちょっとふざけただけ。「〇〇がキモイと思う人集まれ」的なSNSを利用したいいじめもある。被害に遭った子どもの人生が壊される。

なぜ、スマホが子どもを引き付けるか。スマホさえあれば無料でいくらでもゲームができる。また、年齢制限なく保護者の同意が不必要なポイントサイトがあり、CMを見る、アンケートに答えるだけでポイントがたまり、ネット上で換金できる。家の人に知られずに売買もできる。元は無料なのにスマホをいじっているだけで現実的にはお金が手に入る。とても怖い。子どもは将来社会に出て働くという価値をどう感じるか危惧を感じる。子どもは残念ながらどんどんのめり込んでいる。無料は魅力的。しかし裏がある。子どもは、その仕組みは全く分かっていない。スポンサー収入、一部有料コンテンツ、ビッグデータを収集することで得られる収入。無料と引き換えに私たちの情報が勝手に収集・利用されている。社会経験の未熟な子どもは、ゲーム会社の戦略に取り込まれ、恰好なお客になってしまう。面白い、続けたい、やめられない、ネット社会が現実より大切ということになる。

インターネットにつながるとは、友達が勝手にあなたの写真を撮り、あなたの情報を書き込みネットに載せたら、世界の人に見られ、消去不可能でいつまでも情報がネットに残ること。便利、無料など良い面しか知らない。SNSの向こうにネット世界がある意識がなく、自分の持っている機械のリスクをほとんど知らない。正しい使い方、危険性、身の守り方を知らせないまま、機体だけをポンと渡されている現実がある。

これを防ぐためには、ネット利用の基本を決める。①明確なルール ②ペナルティーの設定 ③相談先の把握。ネット利用のルールは大人が勝手に決めても、子どもが守らなかったら意味がない。子どもの意見を取り入れ、明確なルールを決める。決めたら、ルールが守れなかったらどうするかを子どもと話し合い、子どもがペナルティーを決める。そして、困ったことが起きたときの情報収集先と

相談先を調べておく。親子で相談先を検索し、最近の事例や対策を閲覧する。子どもにとって対処法を知っているかいないかは大きなこと。

ネット利用の「見える化」。月々のネット料金を知らない子どもたちに、毎月の利用料金を知らせる。スマホ料金の支払者は誰かを、家計のやりくり、具体的な生活の収支を通して教える。

子どもを取り巻く環境が変わっている今、子どもと向き合うコミュニケーションには工夫が必要。自分がイヤなことは、相手もイヤかも知らない。ネットでつながる相手のことを想像する力をもつ。例えば、自分の写真を見知らぬ他人や通行人に見せられるか。イヤなら相手も同じ。友達の写真をアップするとはこういうことと。具体的に教えていくことが大切。抽象的で理想的なことを言っても伝わらない。具体的なことを示して、コミュニケーションをとることが親子関係では大切。

また、子どもは相手を信頼するから話す。親が一方的に聞くだけでは、本音はなかなか話さない。職業体験では親が自分の体験や経験を話す。自分自身の情報や気持ちを伝え、互いの気持ちを確認し話し合う。身近にいる親が、生きるって、働くって、大人になるってこういうことと語ったら、本当のキャリア教育になる。親が教えないから、子どもはネット上で他人の人生を検索し、「誰々は苦労したんだなあ」と他人ごととなる。

生きていく方法を教えることは、大人の役割である。生きる力をいかに伝えるか、これから大切になってくる。

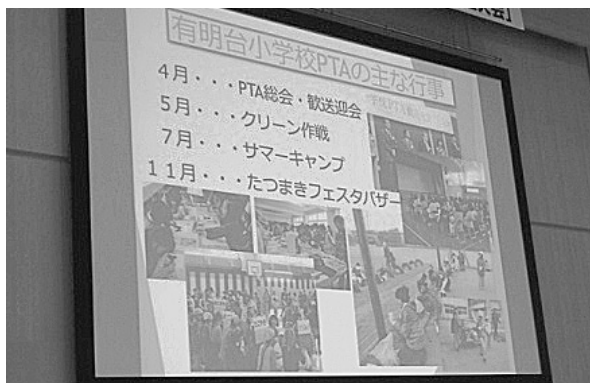
参加者の声

講演はスマホと子どもたちとの関わり方についてのお話でしたが、自分自身についても、反省すべき点がたくさんあるなあ...と、認識不足を気付かせていただきました。

私の場合、普段はスマホでニュースやブログのような記事を読むことが多いのですが、検索ついでにダラダラとリンクを辿っていたり、ネット通販をポチポチしていたり…。またゲームについても、はたして自制できているのか…などなど。我が身を振り返りながら拝聴いたしました。

調べ物に反復学習にと便利に使っていますが、そろそろ動画サイトに入り浸り始める年頃の我が子に、口うるさくならないよう介入しながら、ルールについて話し合う、非常に良い機会になりました。
(有明台小学校 川上 晃)

実践発表 (※市P連HPに内容が掲載されていますので、ぜひご覧ください)



有明台小学校PTA



鏡淵小学校PTA

閉会の挨拶

大会副実行委員長 袖山 健一

本日は、ご多用の中、新潟市小中学校PTA研究大会「中央区大会」に多数の皆様からご出席いただきありがとうございます。オープニングでは白山小学校と新潟小学校の皆さんにとっても元気で、迫力ある万代太鼓の演奏を披露していただきました。これからも万代太鼓を受け継ぎ、地域の伝統と誇りを大切にしていただきたいと思います。そして実践発表においては、地域の方々と一



緒になって防災を視野に入れた親子サマーキャンプのお話、また、芝生のグラウンドを活用して三世代にわたる地域ぐるみの大運動会のお話、それぞれとても素晴らしい発表をしていただきました。

石川結貴先生のご講演でもお話がありました、子どもたちを取り巻く環境がどんどん変わってきております。インターネットやスマートフォンによるトラブル、そして様々な事件事故が発生しております。子どもたちの安全や健全のためにも、子どもたちの笑顔や夢のためにも、保護者と学校と地域のさらなる連携が重要視されています。『地域の宝』である子どもたちをみんなで見守り、心を見つめ、はぐくんでいければと願っております。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたり、ご来賓の皆様をはじめ、PTA会員と関係の皆様のご協力に感謝いたしまして閉会の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

北の大地『日P研究大会「札幌大会」』に 新潟市P連として初参加

第63回日本PTA全国研究大会札幌大会が8月21日、22日の両日、札幌市で開催され、市P連として県Pから独立後初めて、大宮会長以下15名で参加してきました。

大会スローガン『ひろがれ子の未来(ゆめ)！つなぐ親力！～今札幌から始まるこれからのPTA～』のもと、1日目は10の分科会に分かれて参加し、2日目の全体会は、開会式に続き「北の国から」等の作家・脚本家の倉本聰氏の講演を聞くことができました。



全国大会に参加して

第5分科会 研究課題

「子ども一人一人を育むための地域連携のあり方」
市P連副会長 佐々木達也

社会の変化が急速に進む今日、家庭、学校、社会教育がそれぞれ担う役割を見直し、再構築することが求められている。次世代を担う子どもたちのためにどのように連携し、大人は何ができるのかを探った。

今も昔も子育ての主体は「親」であることに変わりはないが、かつては忙しい親世代が変わって子育ての中心は祖父母等であった。しかし核家族化が進む中、学校は無論、地域の果たす役割はますます大きくなっている。

そこで我々大人が意識して社会を変えていくこと、親の世代が学校と地域の橋渡しになって、地域全体で子育てしていく環境を整えねばならない。子どもがいる家庭はもちろん、いない家

庭も巻き込んで活動してゆくことが重要と感じる。そのために何をするか(何ができるか)真剣に考え、実行していかねばとの思いを新たにしました。

第47回 関東ブロックPTA研究大会 横浜大会

「子どもの生きる力を『知・徳・体・公・開』想いをつなぐ教育文明開化～子どもたちと見すえる未来への船出～」をスローガンに10月24日、25日の両日にわたり横浜大会が開催されました。市P連からは11人が参加し、1日目の分科会並びに2日目の全体会に参加しました。全体会の記念講演では歌手・女優の菊池桃子(戸板女子短大客員教授)さんがキャリア教育をテーマに講演しました。

第2分科会

「知 確かな学力」に参加して

南区茨曾根小PTA会長 見米 哲郎

始めに桶川市PTA連合会からの事例発表があり、学校を中心に地域連携に取り組む姿が印象的であった。

次に、落語家の三遊亭究斗講師が登場した。氏は10年間劇団四季の団員として活動の後、34歳から落語家に転身した。現在ミュージカル落語家として活躍している。氏は英語が話せないが、海外講演の「英語落語」で大爆笑を誘った経験をもとに「子どもたちが自ら学んで、表現できる」英語掌握術を披露し、会場を沸かせた。また、芸術祭参加作品「一口弁当」も披露した。笑い涙にあふれた感動的な作品を聞くことができた。

